





既存南ファサード



改修後南ファサード

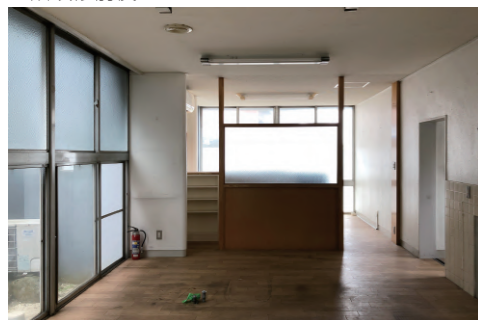
既存と改修の境界をばかす

人口16万人の地方都市の駅前に建つ歯科医院兼用住宅を、事務所兼用住宅にコンバージョンした。歯科医院だった1階を事務所とし、住宅だった2階はそのまま住宅として再利用した。

ここでは、地域で親しまれた医院建築の印象を大きく変えず、新たな用途に接ぎ木するような改修方法を模索した。既存の建物は、築40年ほどの鉄筋コンクリート造で、図面は残っていなかったが地元の建築家が設計したらしかった。ここでは実測し、図面化する中で、原設計者の意図を明らかにし、その意図を引き継いでいくような方向で設計を進めた。例えばシンメトリーが一部崩れた部分をシンメトリーに改修したり、内外に仕上げが連続するような表現を引き継いで、外部の青い塗装を内部にも展開したり。すると、どれが原設計者のデザインでどれが我々のデザインなのか、どこからが既存でどこからが改修なのか、その境界が曖昧になっていくような感覚を覚えた。

この建物の建つ磐田市も、駅前のかつての繁華街の空き家問題が深刻になりつつある。大きな身振りのリノベーションでまちを変えるというより、接ぎ木のようにまちの大きな時間の流れと連続しながら、既存のストックを活用し、新たなまちの魅力となるような改修設計のあり方を考えた。

1階改修前後



既存1階歯科医院内観(北側から南方向を見る)

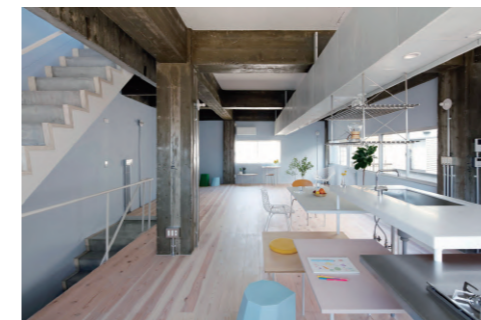


改修後1階事務所内観(北側から南方向を見る)

2階改修前後①



既存2階住宅内観(南側から北方向を見る)



改修後2階住宅内観(南側から北方向を見る)

2階改修前後②



既存2階住宅内観(北側から南方向を見る)



改修後2階住宅内観(北側から南方向を見る)



改修後2階住宅内観(西側から中庭方向を見る)



改修後住宅屋上(北側から南方向を見る)



改修後1階事務所内観(東側から西方向を見る)。奥に中庭を望む

境界をばかすエレメント

既存 / 新規の境界、建物内 / 外の境界、構造体 / 非構造体の境界など、この建築に関わる様々な境界をばかすエレメントが隅々に散りばめられていることで、古くも新しくも見える、といった両義的な状態をつくらうとした。既存のブルーグレーの外壁の色を室内にも展開したり、現しとした躯体の梁と同プロポーションの吊り収納を配置したりと、様々な場所で、既存と新規が対比的ではない接し方をしている。そのことが、旧設計者と新設計者のデザインの境界も曖昧な状態をつくっている。



改修後2階住宅内観(東側から階段方向を見る)



キッチン全景



キッチン使用時①



キッチン使用時②

連続する段のキッチン

5段階の高さの段で構成されたキッチン家具。それぞれの機能は作業台、コンロ台、ダイニングテーブル、小テーブル、ベンチと設定されているが、人のいる場所によって機能が変化していくような家具をつくった。限られたスペースの住宅で、寝る以外のほとんどの行動がこの家具で行われることを想定し、発見的に使っていけるような家具とした。建築というには小さく、家具というには大きな独特のスケールのこの家具が、建築と家具の境界をなじませ、限られた面積の空間をむしろ伸びやかに見せてくれるのではないかと考えた。



延長テーブル、ベンチ利用時

